

常滑市民病院だより

発行者：病院長 中山 隆
編集：病院広報委員会
第56号
2011年7月1日発行



「院長先生を囲む今年の新人」

「院長就任挨拶」

病院長 中山 隆

平成23年4月から、鈴木前院長の後を継いで院長を拝命しました。

37年間の長きにわたり、常滑市民病院を愛し、支え、誰よりも常滑市民病院のために働いてきた鈴木前院長の後任が無事務まるだろうか？不安でいっぱいです。また、あまりに老朽化した現在の建物から新病院へ立て直さなくてはならないという大問題があります。

いろいろ問題は山積していますが、常滑市民病院には優秀なスタッフが大勢います。病院スタッフ一丸となって、“市民に信頼され安心して受診できる”市民病院として、今まで以上に市民の皆様がいい医療を提供していきたいと考えています。そしてその先の新病院を目指したいと思えます。もちろん日常の診療が一番大事であり、新病院は決してそれ自体がすべての目的とすべきものではないかもしれませんが、私たちスタッフにとって新病院は“希望”であります。さらなる充実した医療内容を目指して、またその先の新病院という“希望”を目指して頑張りますので、市民の皆様の温か

いご支援をお願い申し上げます。

その中で市民の皆様の一つお願いがあります。当院は少ない医師数で夜間休日の救急医療を行っています。当直が明けた翌日も通常の勤務を行うことがほとんどです。緊急性のない特に夜間のいわゆるコンビニ受診はスタッフを疲れさせ、やる気を失わせてしまいます。市民の皆様のご理解ご協力を切にお願い申し上げます。



— 第56号の内容 —

* 「院長就任挨拶」

病院長 中山 隆

* 「副院長に就任して」

副院長 中村 英伸

* 「退院支援・退院調整について」

退院調整看護師 長屋 博美

* 「みんなで創ろう！新・常滑市民病院100人会議」が開催されました。

新病院建設室

* 「糖尿病の食事療法」

管理栄養士 東海林 文彦

「副院長に就任して」

副病院長 中村 英伸



4月に副院長に就任し、2カ月が過ぎました。日常診療以外に、会議、委員会などが増え、忙しい毎日を送っています。5月からは「副院長回診」との名目で、内科の入院患者様のみですが、隔週で診させて頂く試みも始めました。微力ではありますが、少しでも当院の医療の向上に繋がる結果に

なればいいかと思っております。

入院患者数も、昨年の同時期と比べ1割以上増加しており、新病院設立に向けて職員の意識が少しずつ前向き変わってきた結果だと考えております。「経営改善なくして新病院は成り立たず」と厳しい命題を掲げていますが、一人一人が何かひとつでもプラスになることを積極的に行うようになれば、医療の質も向上し、自ずと、経営も良くなっていくものと確信しています。

相変わらず医師、看護師など医療スタッフが十分とは言えず、依然として常勤医がいない診療科も存在し厳しい現状であることは否めません。しかし非常勤の先生の中には病院のために多大な貢献をしてくださる方々もみえますし、研修医、新人看護師など4月から新しく加わったスタッフも一生懸命やっている姿を目にします。新病院設立を妄想に終わらせないためにも、まさに今が頑張り時です。目標に向かって一丸となって突き進みましょう。夢が現実となるように。

新任医師紹介

白井 英晶 (うすい ひであき)

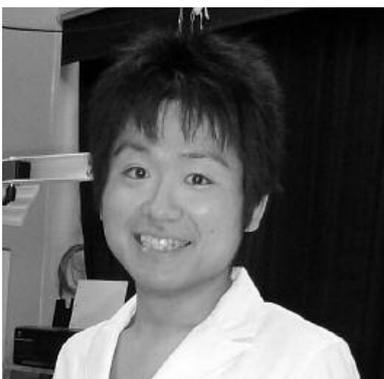
【所属】 眼科
【前任地】 名古屋市立大学病院
【趣味】 旅行、食べ歩き、映画鑑賞、読書、ゴルフ



研修医

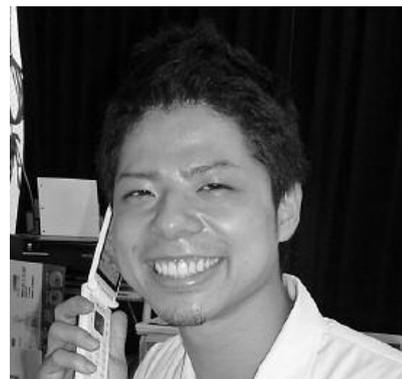
小松 拓朗 (こまつ たくろう)

【生年月日】 S59.6.6
【出身】 福岡県
【趣味】 草野球、旅行、BBQ



岩崎 仁 (いわさき じん)

【生年月日】 S58.6.16
【出身】 名古屋市緑区
【趣味】 体を動かすこと



「退院支援・退院調整について」

退院調整看護師 長屋 博美

入院された患者さんが医療を受けられて、退院後に入院前と同じように自立した生活が送れば心配はいりません。しかし慢性の疾患や悪性腫瘍など治療を継続しながら、患者や家族が病気と向き合い生活をしていく必要のある病気が殆どです。そして療養生活上の変化（医療処置や医療管理など）のまま生活の場に戻る事も多くなってきています。その患者・家族が病気や病態を理解して「元の生活の場に帰ろう」と自己決定できるように援助することが退院支援です。退院後もより安全なそして安定した療養生活を送れるように地域医療・福祉サービスへの調整を行っていくことが退院調整と言います。

当院の取組として入院から早期に退院後の生活のイメージを行い退院支援にかかわっています。退院に向けての調整として

- ①医療管理・医療処置が継続する
⇒早期から本人・家族指導・介護職に向けて指導

- ②日常生活動作・手段的日常生活動作が低下し、自立した生活に戻れない
⇒在宅生活・介護上の問題などの解決の為早期にケアマネージャーとの連携をする。
介護保険申請、退院前訪問、住宅改修、介護サービスなど
- ③癌や難病のように進行する症状を抱えながら在宅療養を迎える
⇒カンファレンス（第1回・退院前）
訪問看護ステーション、保健所、介護サービス
- ④在宅での病状管理が不十分なための再入院繰り返す
⇒内服管理をどのように持っていくか、食事管理、介護サービス

①～④などの問題を調整し、患者が「うちに帰りたい」という思いにいかにかかり添っていただけるかを常に念頭に置き、家族の負担を軽減しながら自宅復帰に毎日病棟と地域連携室を飛び回っています。

「みんなで創ろう! 新・常滑市民病院100人会議」が開催されました。

新病院建設室

「みんなで創ろう! 新・常滑市民病院100人会議」は、公募や無作為抽出による市民の皆さまと医療・行政スタッフからなる111人のメンバーらが、これからの市民ニーズ、病院経営、医療資源、市財政などの諸条件を踏まえつつ、将来にわたり「本当にあってよかった」「私たちが支えていこう」と思ってもらえるような新病院のあり方を議論していただくため、立ち上げられました。「地域にとって、市民にとって、本当に必要な病院づくり」を目標に、様々なテーマに沿って話し合い、ご意見を出していただきます。開催は、9月までの毎月第3日曜日（9月のみ第2日曜日）午後2時から市民病院内で行います。会議は、原則公開で

傍聴もできます。

第1回100人会議は、5月15日（日）に開催され、中山院長のあいさつに始まり、各グループワークの進行役であるコーディネーターの紹介や病院の現状説明などを行いました。後半は10人程度のグループに分かれ、病院についてフリートーキングをしました。会場内は、市民メンバー、コーディネーター、医療・行政スタッフ、傍聴者などを合わせると120人を超え、汗ばむほどの熱気で包まれました。会議の内容は、当院ホームページにも掲載しています。

<http://www.tac-net.ne.jp/~toko-hp/>



「糖尿病の食事療法」

管理栄養士 東海林 文彦

現在、日本人の6人に1人以上に発症している糖尿病。その食事について新聞やテレビ等でも多く取り上げられていますね。さて、皆さんは「糖尿病の食事療法」と聞いてどんなことを思い浮かべますか？「お米がいけない」とか「砂糖がいけない」、「油脂がいけない」など、もっともな様にお話されているのを耳にしますが、果たしてそうなのでしょうか？ 正解は「何を食べても良い」です。世間に出回っている食品は全て、適量に摂れば体に良く、害になりません。反対に、どんな食品でも食べ過ぎれば体に悪く、害になります（極論ですが…）。また、これを食べると良いという特別な物もありません。要は量と全体のバランスが大切ということです。

量については、自身の必要な「エネルギー量」を考えて食べることが大切です。満足する食事全体の量とエネルギー量の両方がクリアできることが、糖尿病の食事療法を長続きさせる秘訣であると考えます。必要なエネルギー量の詳細については、糖尿病教室の第2回でご説明致しますので、興味が沸きましたら是非お越しください。

バランスについては、3大栄養素の比率を、炭水化物6:たんぱく質2:脂質2に近くなるように配分します。これを全て成分計算することは自宅では無理があります。そこで利用するのが「糖尿病食事療法のための食品交換表」です。80kcalをひとつの目安にして1日の量を食品の仲間毎に決めて数を数える方法です。「糖尿病食事療法のための食品交換表」は大手書店もしくは病院売店にて販売していますので、しっかり食事管理をしたい方はご利用ください。

当院では1シリーズ6回で糖尿病教室を開催しています。糖尿病について各分野の専門家が詳しくお話しいたします。糖尿病で治療をされておられる方、またそのご家族の方、糖尿病予備軍の方、糖尿病に関心のある方など、どなたでも参加していただけます。参加費無料で予約の必要もありません。途中から参加されても10月から第1回に戻って始まります。今シリーズの開催日と講義内容は次のとおりです。この機会に、皆様お誘い合わせのうえお越しください。

第4回 7月14日（木）

合併症

①網膜症（眼科医師）

糖尿病による視力低下の原因、症状、その治療について説明します。

②心臓病（循環器内科医師）

糖尿病による心疾患について説明します。

日常生活の留意点（看護師）

第5回 8月23日（火）

合併症

③腎症（内科医師）

糖尿病による腎不全について説明します。

④神経障害（内科医師）

糖尿病による感覚の鈍りについてお話しします。

⑤壊疽（内科医師）

血液の循環不良による治りにくい傷についてお話しします。

第6回 9月20日（火）

食事療法「カードバイキング」（管理栄養士）

料理の写真を選んでいただき、バランス感覚を評価いたします。

編集後記

東北大震災では未曾有の被害となり、多くの方々がいまだ大変な状況となっています。これは対岸の火事ではなく、地球上に住む者にとって避けては通れない自然災害なのです。今回の震災では、そのような災害がもし東海地方で起こったとしても、当地で暮らしている方々の診療ならびに遠隔地の患者受け入れができる公的病院として、全面的に支えられる構想をもっと考えておかなければならないと、強く感じました。当院にかかられる皆さんは、今回の大規模災害を目の当たりにして、どのように感じられたでしょうか？災害時での病院の在り方など皆様の意見もお聞かせください。（編集担当）